

小学生に読みきかせ

—低学年向き—

小学生に絵本の読み聞かせを行ってみようという方を対象にしたリストです。図書に関する記載事項は、書名・編著者名・画家名・訳者名・出版社・大きさ・ページ数・ISBN・通して読むのにかかる時間の目安の順になっています。

おおきなかぶ —ロシアの昔話— A. トルストイ著 内田莉莎子訳 佐藤忠良絵 福音館書店

20×27cm 27p 978-4-8340-0062-7 5分

おじいさんの植えたカブが、大きく大きく育ちます。そのカブを抜くために、おじいさんだけでなく、おばあさん、孫娘、犬、猫、ネズミまでいっしょになってひっぱります。「うんとこしょどっこいしょ」のかけ声を楽しんでみましょう。

おふろだいすき 松岡享子著 林 明子絵 福音館書店 26×27cm 40p 978-4-8340-0873-9 11分

ぼくとおもちゃのアヒルのプッカがお風呂に入っていると、浴室に次々と動物たちがあらわれます。狭いはずの浴室にカバやクジラまで登場する意外性もあり、少し長めのお話でも、子どもたちは楽しめます。

かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック著・絵 じんぐう てるお訳 富山房

24×26cm 41p 978-4-572-00215-0 5分

叱られて夕飯抜きで寝に行かされたマックスの部屋が森になり、波が打ち寄せ、船を運んできます。マックスは船に乗りかいじゅうたちのいる島に航海します。細密なペン画と抑えた色使い、無気味ながらも魅力的なかいじゅうたちが、子どもの心をひきつけます。

かさじぞう 瀬田貞二著 赤羽末吉絵 福音館書店 27cm 19p 978-4-8340-0071-9 5分

大晦日の夜、雪の中のお地蔵さんが寒そうで、じいさんは売れ残った笠を順々にかぶせて帰ります。元日の明け方、不思議な掛け声が家の方に近づいてきます。柔らかな筆のタッチを生かした絵と温かな語り口が、静かな昔話の世界を紡ぎ出します。

キャベツくん 長 新太著・絵 文研出版 29cm 29p 978-4-580-81397-7 4分

腹ペコのブタヤマさんに食べられそうになったキャベツくんは、自分を食べるとキャベツになるよと言います。すると空には、体のどこかがキャベツになった動物が次々と浮かびます。ナンセンスな面白さとページをめくる楽しみがいっぱいです。

くまのコールテンくん ドン・フリーマン著・絵 松岡享子訳 偕成社

23×25cm 30p 978-4-03-202190-5 7分

クマのぬいぐるみのコールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場で、誰かが買ってくれるのを待っていました。ある日、ボタンが一つないことに気づき、夜になってお店の中を探します。分かりやすい絵と文章で物語の世界に入りやすく、心あたたまのお話です。

ぐりとぐら 中川李枝子著 大村百合子絵 福音館書店 20×27cm 27p 978-4-8340-0082-5 5分

のねずみのぐりとぐらは、森の中で、とても大きな卵を見つけます。その卵でカステラを作っていると、においにつられて森の動物たちが集まってきます。他にも『ぐりとぐらのかいすいよく』クリスマスがテーマの『ぐりとぐらのおきやくさま』などがあり、読み聞かせにむいています。

こすずめのぼうけん ルース・エインワース著 堀内誠一絵 石井桃子訳 福音館書店

20×27cm 31p 978-4-8340-0526-4 7分

飛び方を覚えたばかりの子スズメが、初めて巣を離れ、さまざまな鳥たちの巣を回った後、母鳥のもとに帰りつくまでを描いています。小さな冒険をやり遂げた子スズメの達成感と安心感がよく伝わってきます。他の鳥たちとのやりとりの繰り返しがリズムカルです。

ことり 中川ひろたか著 平田利之絵 金の星社 18×18cm 25p 978-4-323-03905-3 3分

小鳥が1羽、2羽と次々にやってきて、10羽集まったところに、ネコがそろりと近づいてきます。黄色い背景に、青い小鳥と黒いネコが、色鮮やかに美しく描かれています。パズルのように図案化された小鳥たちが印象的で、ゆっくりとめくって楽しめます。

三びきのやぎのがらがらどん アスビョルンセンとモーの北欧民話―

マーシャ・ブラウン著・絵 せた ていじ訳 福音館書店 26cm 30p 978-4-8340-0043-6 5分

三匹のヤギが、山の草場へ行く途中の橋の下には大きな怖いトロールがいて、ヤギたちを食べようと待ち構えています。リズムカルな擬音の繰り返し、トロールとのやりとり、力強く美しい色彩の絵が魅力的な、昔話絵本の傑作です。

11匹きのねこ 馬場のぼる著・絵 こぐま社 27cm 39p 978-4-7721-0004-5 5分

おなかをすかせた11匹のネコが、湖に住む大きな魚を捕まえようと、みんなで旅に出かけます。ユーモアたっぷりの絵で、のらネコたちの楽しい冒険をテンポよく描きます。シリーズの1作めで他の作品も人気があります。

スイミー ーちいさなかしこいさかなのはなしー レオ・レオニ著・絵 谷川俊太郎訳 好学社

28cm 31p 978-4-7690-2001-1 4分

真っ黒で小さな魚・スイミーは、赤い色をしたきょうだいたちと暮らしています。ある日きょうだいたちがみんな、大きな魚に食べられてしまいました。体の小さな魚たちが、工夫し協力して生きていく様子が描かれています。

ぜったいたべないからね ローレン・チャイルド著・絵 木坂 涼訳 フレーベル館

29cm 32p 978-4-577-02357-0 7分

好き嫌が多い妹のローラのため、兄のチャーリーはいいことを思いつきました。人参は木星の「えだみかん」、豆は空から降ってくる「あめだまみどり」と名付け、妹は思わず食べてしまいます。絵と写真のコラージュを活かした明るい画面で、兄妹のやりとりがほほえましく描かれます。

せんたくかあちゃん さとう わきこ著・絵 福音館書店 20×27cm 31p 978-4-8340-0897-5 5分

かあちゃんが、洗濯物を干していると、いきなり暗くなった空から、薄汚れたかみなりさまが落ちてきました。かあちゃんは、かみなりさまもすっきり洗って干してしまいます。大らかな親しみやすい絵が魅力的です。

そらまめくんのベッド なかや みわ著・絵 福音館書店 20×27cm 27p 978-4-8340-1629-1 5分

そらまめくんの宝物はさやでできた、ふわふわのベッドです。ある日、大事なベッドが無くなり、そらまめくんは探しに出かけます。さやのベッドという発想が面白く、豆の仲間たちとのやりとりも、にぎやかで楽しめます。

てぶくろ ―ウクライナ民話― エフゲーニ・ラチョフ絵 うちだ りさこ訳 福音館書店

22×28cm 16p 978-4-8340-0050-4 5分

雪の中、落としものの手袋に、森の動物たちが住みつきます。だんだん大きな動物がやってきて、手袋に煙突や窓が付いて行くのが、子どもたちをひきつけます。「ぴょんぴょんがえる」や「はやあしうさぎ」などの呼び名も楽しく、性格や特徴が表された動物たちの絵も見ごたえがあります。

どうながのプレッツェル マーグレット・レイ著 H.A.レイ絵 わたなべ しげお訳 福音館書店

26cm 32p 978-4-8340-0731-2 5分

ダックスフントのプレッツェルは、胴がとても長くて、みんなの注目の的です。でも大好きなグレタだけは知らん顔。なんとか振り向いてもらおうと頑張るプレッツェルのけなげな様子が、のびやかな絵で微笑ましく描かれています。

にげだしたひげ シビル・ウェッタシンハ著・絵 のぐち ただし訳 木城えほんの郷

22×31cm 24p 978-4-902426-02-1 5分

いつもはネズミにかじらせているバブンじいさんのひげが、切られまいと逃げ出してしまいました。動物も村人もぐるぐると巻き込んで伸びていきます。のんびりとした筆致で描かれた情景が楽しい、スリランカのお話です。

はらぺこあおむし エリック・カール著・絵 もり ひさし訳 偕成社

22×31cm 25p 978-4-03-328010-3 4分

日曜日の朝、卵からかえったアオムシは、食べるものを探しました。月曜日にリンゴを一つ、火曜日にナシを二つ、と腹ぺこのアオムシはどんどん食べつづけます。鮮やかな色彩の絵と、ページにあいた小さい穴のしかけで、見るものをひきつけます。

ひまわり 和歌山静子著・絵 福音館書店 22cm 24p 978-4-8340-2205-6 4分

種が、とんと落ちました。どんどこ どんどこ、と大きくなっていきます。夏の太陽の下、緑の太い茎と葉が育ち、黄色い大きな花がどんと大きく開きます。縦に開いていく見開きの絵とどんどこの繰り返しのリズムが楽しめます。

密林―きれいなひょうの話 工藤直子著 和田 誠絵 瑞雲舎 31cm 32p 978-4-907613-19-8 8分

ヒョウは自分の体の斑点が自慢でした。ところが、突然、その斑点が家出をしてしまい、ヒョウは探しに出かけます。密林の動物達との会話も楽しく、新しく蝶々の斑点を得た、ヒョウの美しい姿がこの絵本の見せ場です。

めっきらもっきらどおんどん 長谷川摂子著 ふりや なな絵 福音館書店

20×27cm 31p 978-4-8340-1017-6 6分

かんたが、神社でめちゃくちゃな歌を歌ったら、木の穴に吸い込まれて、夜の山に落っこちました。そこで、かんたは奇妙な名前の三人のおばけと、たっぷり豪快に遊びます。おまじないのような調子のよい歌と、黒を効果的に使った絵柄が、怖いもの見たさの子どもの興味をひきつけます。

ルラルさんのにわ いう ひろし著・絵 ポプラ社 24×25cm 32p 978-4-591-06942-4 3分

ルラルさんの大切な芝生の庭。誰かが入ろうとしてもパチンコで撃退します。でもある朝、庭を見てびっくり！怖そうなワニが寝ているのです。とぼけた味わいの絵が魅力的で、最後のページをめくったときの楽しさは格別です。

わゴムはどのくらいのびるかしら？ マイク・サーラー著 ジェリー・ジョイナー絵

きしだ えりこ訳 ほるぷ出版 19×24cm 32p 978-4-593-50402-2 3分

わゴムがどのくらい伸びるか試してみることにしたぼうやは、わゴムの端をベッドの枠に引っ掛けてどんどん引っ張り、ついには宇宙にまでいってしまいます。想像力豊かで楽しいお話です。大型絵本も出版されています。

わにわにのおふろ 小風さち著 山口マオ絵 福音館書店 22cm 24p 978-4-8340-1970-4 3分

わにわには、おふろが大好きです。きゅるりきゅるりと蛇口をひねり、じゃばじゃばとお湯を入れ、じょろろーん！と飛び込みます。木版画のくっきりとした絵で、ワニの動きが印象的に描かれています。ユーモアたっぷりの擬音が面白く、気軽に楽しめます。

